

警戒すべきデング熱症例数の急増

こちらは、英文記事「[Alarming spike in dengue cases](#)」（2019年10月7日付）の和訳です。



デング熱の発生件数は、2017～18年に減少してから、2019年になって急増しています。南米諸国と東南アジア諸国は現在最も深刻な感染地域となっています。

デング熱は感染した蚊が媒介するウイルス感染症で、生命に関わる場合もあります。インフルエンザのような症状が現れ、「デング出血熱」と呼ばれる死に至る可能性のある合併症へと進展することがあります。デング熱は、貧困地域の都市部、郊外、地方で多く発生しますが、熱帯・亜熱帯諸国の富裕地区でも発生します。感染率は日中の屋外でより高くなります。

デング熱用のワクチンは開発されておらず、最善の予防策は蚊に刺されないようにすることです。そのため、デング熱が発生している諸国を航行する船舶の船主や運航者は、感染リスクについて乗組員に周知し、デング熱によって起こり得る様々な問題に対処できるようにしておいてください。

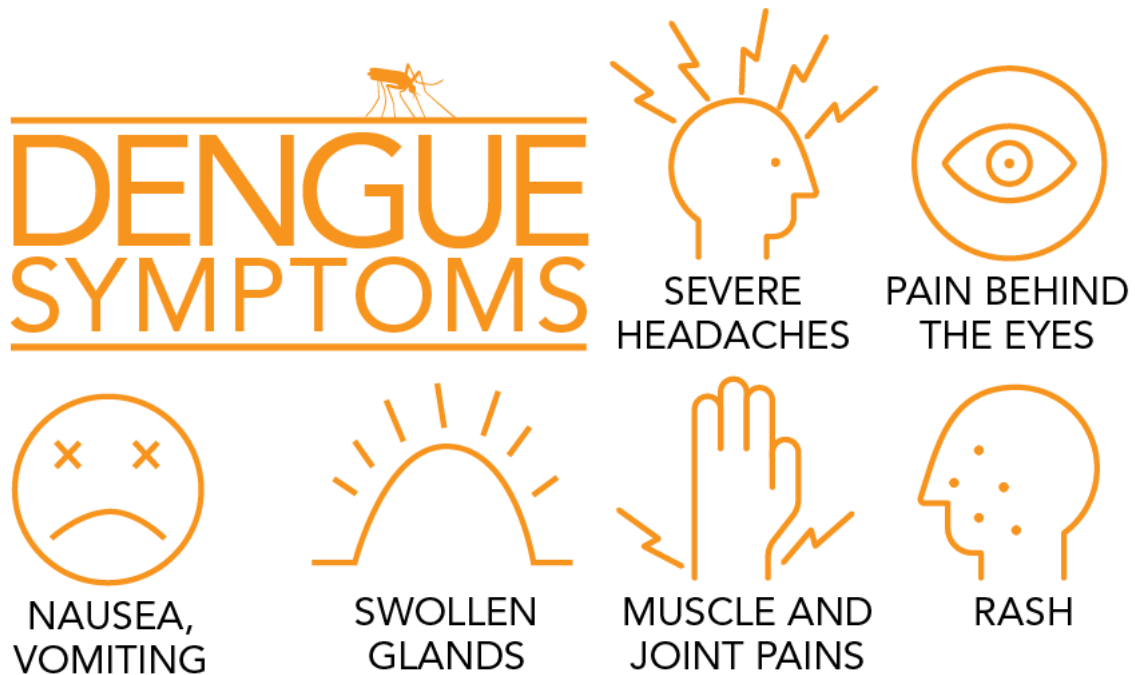
デング熱の発生分布動向

世界保健機関（[WHO](#)）によると、デング熱の発生件数は過去50年間で30倍にも増加しています。1970年より前には、デング熱の大流行が起きた国は9か国だけでしたが、今やデング病が風土病となっている100か国以上の国々において、年間最大で5000万件～1億件の症例が発生していると見られており、世界の人口のおよそ半分が感染リスクにさらされていることとなります。

デング熱の新たな地域への拡大により症例が増加しているばかりでなく、爆発的な大流行も起きています。[2019年9月20日](#)付の欧州疾病予防管理センター（ECDC）の報告によれば、ブラジル、タイ、フィリピン、カンボジア、ベトナム等の諸国では、2018年の同時期と比較して、デング熱の症例数が著しく増加しているとのことです。また、WHOもコンゴ、コートジボワール、タンザニアでのデング熱の大流行を報じており、さらにヨーロッパにおいてもデング熱の流行が発生しうる危険性がある点も強調しています。[2019年10月1日](#)現在、フランスとスペインで、デング熱の局所的な症例（自国発生）が3例報告されていますが、秋季は環境条件的に感染しにくくなることから、ECDCでは、両国において継続的に感染が拡大する可能性は極めて低いと考えています。

注目すべき症状

デング熱に感染した船員には、最初はインフルエンザや他の発熱を伴う病気に似た軽めの一般的な症状が現れます。しかし、WHOによると、高熱（40度）を伴い、以下の症状（激しい頭痛、眼の奥の痛み、悪心嘔吐、腺肥大、筋肉痛・関節痛、発疹）のうち2つ以上が見られる場合にはデング熱が疑われます。



症状は感染した蚊に刺された後、4～10日の潜伏期を経て、通常2～7日間持続します。

デング出血熱とは、血漿漏出、体液貯留、呼吸困難、重度の出血、臓器機能障害等により死に至る可能性のある合併症です。デング出血熱の**兆候**は、初期症状が出現してから3～7日後に起こり、併せて、体温低下（38度以下）のほか、激しい腹痛、しつこい嘔吐、呼吸促迫、歯肉出血、吐血、疲労、不安などの症状が現れます。続く24～48時間は重篤期で生命の危険が高く、合併症や死亡リスクを避けるために適切な医療処置を行うことが必要です。

蚊の発生地域を航行する船舶の予防対策

発生地域へ出発前

- デング熱の現在の発生状況について、WHO や関連ウェブサイトの詳細にチェックし、公式勧告を入手しておく。疑わしい場合は医師に相談する。
- 寄港予定のすべての港についてリスク評価をしておく。発生地域での滞在期間、海上、港、川などでの航行期間や乗組員の上陸予定も合わせて検討しておく。
- 乗組員に対しリスクや予防対策、また海上で発症した場合に取るべき対策について説明しておく。頭痛、発熱などインフルエンザ様の症状が出たら必ず医務官に相談することを強調しておく。
- 効果の高い防虫用品（例：[DEET](#)、[ピカリジン](#)、[IR3535](#)等を含む防虫剤）や明るい色合いのつなぎ服、船窓・ドア用網戸、蚊帳などの備品が船内に充分あるか確認しておく。

発生地域寄港中

- 蚊に刺されないために以下のような対策を実施する
 - 窓やドアは閉じておき、常に空調を効かせておく。
 - できるだけ、船室、機関室など屋内にとどまる。
 - デッキなど屋外に出る時には、ゆったりとした明るい色合いの服を着用する。
 - 効果の高い防虫剤を露出している皮膚や衣服の上から、ラベルに記載された使用方法に従って塗布する。
 - 日焼け止めを使用する場合、先に日焼け止めをつけ、その上から防虫剤を塗る。
- 露、雨などによる水たまりを除去し、船内に蚊の繁殖場所を作らないようにする。
- 救命ボート、渦巻き状に巻いた係船ロープ、船底、甲板排水口、日よけや排水溝の周囲など濡れやすい場所には特に注意する。WHO の見解では、「ボトル缶 1 杯の水でも、蚊が繁殖するには十分である」
- 船室等にいる蚊は、殺虫スプレーで駆除する。

発生地域寄港後

- 船上においてデング熱の発生が疑われる場合には無線で医療アドバイスを受ける。通常、潜伏期間は船が港に停泊している期間よりも長いため、港を出港した後に感染症状が現れることが多い。
- 患者を常時観察し、できれば医師の協力のもと船上で必要な治療を施す。
- 患者は安静にし、しっかり水分補給をさせる。解熱や関節痛の緩和にはパラセタモールを用いることができる。アスピリン、イブプロフェン等の非ステロイド性消炎鎮痛薬は、出血を助長するおそれがあるため、服用しないこと。
- 患者の容体に改善が見られない場合は、下船させ病院に搬送する。

航行地域によっては、航海計画の立案にあたり、マラリア、黄熱、チクングニア熱、ジカ熱等、他の[蚊媒介感染症](#)に罹患するリスクも考慮に入れておいてください。

追加情報の入手

予防することは警戒するということ。常に最新情報を入手するようにしてください！以下に推奨する情報入手先を挙げておきます。

- マラリア等の蚊媒介感染症の詳細情報 - 特徴、治療、予防、地理的分布や最近の発生状況については WHO の「[Health topics](#)（健康トピックス）」に掲載されています。
- アメリカ疾病予防管理センター（CDC）も同様の情報を「[Disease & Conditions A-Z Index](#)（病気と症状 アルファベット順インデックス）」で提供しています。
- CDC の総合「[Destination List](#)（目的地リスト）」。蚊媒介性疾患による航海のリスク評価にはまずこの情報を見るとよいでしょう。欧州疾病予防管理センター（ECDC）は、定期的に[Communicable Disease Threat Reports](#)（感染症脅威報告）を発表しています。

各国政府もウェブサイト上の安全渡航欄で感染症の季節的な発生の安全警報を発表しています。また関連情報は医師や各地の予防接種事務所でも入手できます。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。